

D- I -12 当院集中治療部における人工呼吸器関連肺炎の発生率

昭和大学病院集中治療部*1 昭和大学医学部麻酔科学講座*2

昭和大学病院環境整備センター*3

杉野正*1 高野洋*1 山本裕子*1 高橋朗*1 大久保由香*1

松村堅二*2 椎葉典子*3 小磯恵美*1

【目的】

人工呼吸器使用中の合併症として人工呼吸器関連肺炎（VAP）の発生が注目されている。当院集中治療部（ICU）においても、実際にVAPにより人工呼吸器離脱が困難となる症例を経験し、院内感染症としての重要性を認識している。今後のVAP予防策を検討するにあたり、baseline dataを把握する目的でretrospectiveな調査を実施したので報告する。

【方法】

調査期間は2004年6月～2005年2月の9ヶ月間。ICUで人工呼吸器を使用した患者239名を対象にVAPの発生率を調査した。VAPの診断にはNNIS（米国CDC）院内肺炎の判定基準を用いた。

【結果】

ICU延べ患者数2857名、人工呼吸器使用比0.4、VAP発生率10.2（1000 device-days）。発生時期は、人工呼吸器導入4日以内の早期VAP6例、5日以降発生の晩期VAPが7例であった。ICU入室経路は、手術後入室がVAP群10例、Non-VAP群206例であった。人工呼吸器使用日数は、VAP群20.5±13.2日（Mean±SD）、Non-VAP群4.5±6.4日、ICU在室日数はVAP群22.5±12.4日、Non-VAP群7.4±6.8日であった。人

工呼吸器使用日数、ICU在室日数共にVAP群が有意に長期化していた。VAP患者の疾患の内訳は、脳神経疾患6名、心臓・大血管疾患4名、腹部消化器疾患3名で、原疾患に呼吸器系疾患は含まれていなかった。VAP患者の内因的な感染リスクはAPACHE II scoreを用いて評価した。ICU入室時のscoreは13(min)～33(max)で、20以下群が6例、21～30群が3例、31以上群が4例であった。VAPの起炎菌としては、Candida albicans、P.aeruginosa、MRSAなどが多く、特に晩期VAPでは6例中5例にMRSAが検出されていた。VAP患者の治療上の共通因子としては、全例に経鼻胃管の挿入とH₂ブロッカー投与があり、人工呼吸器の条件としてはPEEPの使用が認められた。これらは一般的にVAPの独立した危険因子として挙げられているものと同様の結果で、重症患者がVAPを発症している傾向にあった。これらを踏まえて、当ICUスタッフに対するサーベイランス結果のフィードバックや教育を行うことが今後の対策として必要ではないかと考えている。

【結語】

当院ICUにおけるVAP発生率10.2。NNIS Report(October 2004)によるとsurgical-ICUではVAP発生率9.3で、当院も同程度の発生率であった。